



“にぎわい”があふれる町へ

「オール益城」で取り組んでまいります

益城町長 西村博則

新年を迎えるにあたり、町民の皆さまに謹んでごあいさつを申し上げます。震災から5年の節目となる新年を迎えました。あらためてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました全ての皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、人吉・球磨地方をはじめ県内各地に多大な被害をもたらした、令和2年7月豪雨災害が思い起こされます。熊本地震の経験を踏まえ、発災後、直ちに私自身が先頭に立って被災市町村を訪問し、直接熊本地震の教訓を伝えるとともに、り災証明書発行支援や給水支援などに延べ280人の職員を派遣し、復旧支援を行いました。また、新型コロナウイルスが猛威を振るった1年でもありました。皆さま方の生活も大きく変化したのではないでしょう

うか。本町では、対策本部をいち早く立ち上げ、感染症対策をはじめ、困難な状況に陥っている方々への給付事業、デジタル化への対応を含めた町内全小中学生への通信回線搭載タブレット端末配布など、町独自の対策をスピード感を持って進めてきました。引き続き今後も、状況に応じた迅速な対応を行ってまいります。町の復旧・復興につきましても、全ての災害公営住宅が完成し、被災され自力での再建が困難になられた方々の恒久的な住まいを確保いたしました。しかし、復旧・復興事業の関係で住まいを再建できず、仮設住宅などでの生活を余儀なく

されている方々もおられます。引き続き最後のお一人までしっかりと寄り添ってまいります。

公共施設におきましても、昨年7月に利用が再開された総合体育館に続き、町の文化活動の拠点である文化会館と益城

中学校の復旧工事が3月末に完了いたします。さらには新庁舎も、令和4年度中の完成を目指し、本年から工事を行ってまいります。また、県道熊本高森線4車線化工事は、モデル区間が整備されるなど着実に進展しており、益城中央被災市街地復興土地地区画整理事業においても、宅地造成工事が完了した所から、順次地権者に土地が引き渡されており、

このように町の復旧・復興が進展する中、並行して町の“にぎわいづくり”にも取り組んでおります。この“にぎわいづくり”は、昨年設立したまちづくり会社「株未来創成まじき」をはじめ、各地区のまちづくり協議会、そして全ての町民の皆さまの力を結集させなければ成し遂げることができません。

本年秋には、仮設住宅に設置されていた「みんなの家」を再活用し、高校生などが集まり活動する場となる「コワーキングスペース」や、町の地域課題解決に寄与する企業を集積する「シェアオフィス」を木山横町線に開設するほか、惣領では「にぎわい拠点」の建設も始まります。役場内でも若手職員が中心となり各種プロ



ジェクトが動いており、企業誘致はもとより、移住定住を目指したタウンプロモーション、年間来場者数100万人を超えるグランメッセ熊本と連携した町内回遊、スポーツ振興と観光誘客につながる大会・合宿誘致など、より幅広い分野で、トップセールスをはじめとしたさまざまな取り組みを展開しております。

また、令和5年には空港新ターミナルの開業、東海大学臨空キャンパスの開校が控えており、これらと連携した“にぎわいづくり”を、多様な民間企業、団体、自治体などと一緒を進めてまいります。益城町を“にぎわい”があふれる町へと発展させ、住んでいる人も町を訪れた人もみんなが笑顔になる町にすることが私の使命であると考えております。「オール益城」の精神で、共に“にぎわいづくり”にご参画いただければと思います。結びになりますが、本年が町民の皆さまにとりまして、希望に満ちた素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。